

新座市洪水・土砂災害ハザードマップ

Map of flood disaster areas and Landslide warning areas in Niiza city
新座市洪水災害、泥石流災害危険地図 나이자시 홍수 재해, 토사 재해 지도

保存版

発行：新座市

発行年月：令和8年3月
〒352-8623 埼玉県新座市野火止一丁目1番1号
電話番号：048-477-2502
ホームページ：https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousai/r03kuzou-dosyaisaigai-hazardmap.html
問合せ先：危機管理課



WEB版はこちら

～自分の安全は自分で守る 自分たちのまちは自分たちで守る～

この地図は、荒川、柳瀬川、黒目川が氾濫し洪水が発生した際の浸水の状況と、土砂災害（特別）警戒区域（がけ崩れにより被害を受けるおそれがある場所）、風水害時における避難場所の位置を示したものです。

河川の氾濫については、想定最大規模の大雨（おおむね1000年に1度程度の確率で発生すると考えられる大雨）が降った場合を想定したものです。

この地図で自宅の周辺の災害リスクや、避難場所・避難経路を確認し、いざというときに適切な行動がとれるよう備えてください。

●作成のもととした洪水浸水想定区域図等

- 荒川水系荒川洪水浸水想定区域図（作成主体：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所・荒川下流河川事務所 平成28年5月30日指定。荒川流域の72時間総雨量632mm）
- 荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図（作成主体：埼玉県県土整備部河川砂防課 令和2年5月26日指定。新河岸川流域の2日間総雨量746mm）

（参考）アメダス所沢観測所では、令和元年東日本台風（台風第19号）接近時に72時間で362.5mmの降水量を記録しています。



【平成30年7月豪雨による水害の状況（四山集）】

このマップの利用方法

このマップを参考にして、以下の項目を確認してみましょう。

- 自宅やよく行く施設、場所、よく通るところの浸水やがけ崩れの可能性
- 避難する場所や避難経路
- 避難の目安となる情報ととるべき行動
- 洪水・土砂災害時の避難方法

新座市では、9月の第1日曜日を「新座市家族防災会議の日」と定めています。各家庭で、防災への取組みについて話し合い、あわせて、地域の自主防災組織や、防災訓練・避難訓練への積極的な参加を検討してみてください。

1 避難の目安となる情報

雨の強さの目安

降雨状況を確認し、河川の増水などにより洪水が起きる可能性に注意しましょう。

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10～20mm未満	1時間に20～30mm未満	1時間に30～50mm未満	1時間に50～80mm未満	1時間に80mm以上
ザーザーと降る雨	どしどし降る雨	バケツをひっくり返したように降る雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）雨	息苦しくなるような圧迫感がある、恐怖を感じる雨
この程度の雨でも長く続く時は注意が必要となる。	倒溝や集水溝（グレーチング）が溢れ、小さな川が溢れ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れがけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要となる。道路が川のようになる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が溢れ出る。水しぶきで視界が悪くなる。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生のおそれが高く、厳重な警戒が必要となる。

避難情報の種類

市は、気象庁の防災気象情報や市内の被害状況に応じて、市民のみなさまの避難が必要と判断した場合に、避難情報を発令します。避難情報が発令されたら、当初から開設を予定する避難所から順次開設しますので、安全な場所へ避難しましょう。

警戒レベル	防災気象情報	避難情報	取るべき行動
5	氾濫特別警戒・大雨特別警戒・土砂災害特別警戒	緊急安全確保	命の危険、直ちに安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	氾濫危険警戒・大雨危険警戒・土砂災害警戒	避難指示	危険な場所から全員避難
3	氾濫警戒・大雨警戒・土砂災害警戒	高齢者等避難	避難の準備・避難に時間を要する人は早めに避難
2	氾濫注意警戒・大雨注意警戒・土砂災害注意警戒	—	自らの避難行動を確認
1	早期注意警戒	—	災害への心構えを高める

○立ち退き避難（水平避難）
原則として、浸水被害が発生する前に高台や避難所に避難してください。

○屋内安全確保（垂直避難）
浸水する前の水平避難が間に合わず、既に道路が浸水してしまっただけでは、避難所への移動はかかって危険な場合があります。今の建物のなるべく高い場所に移動し、安全を確保してください。

災害発生時の各避難所の避難状況については、以下の二次元コードから確認できますのでご参照ください。

VACAN (バカン)

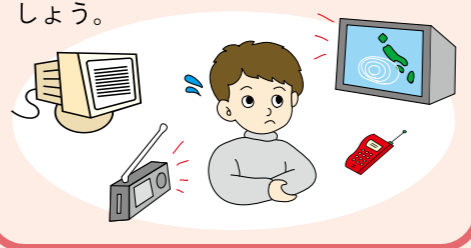
2 避難の際の心得

心構えと準備

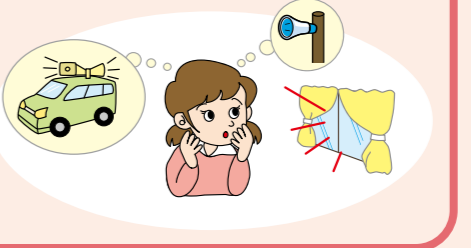
●避難場所と避難経路の確認を
白頭から、洪水・土砂災害時の避難場所と安全に移動できる避難経路を確認しておきましょう。浸水の状況の変化に備え、複数の避難経路を考えておきましょう。



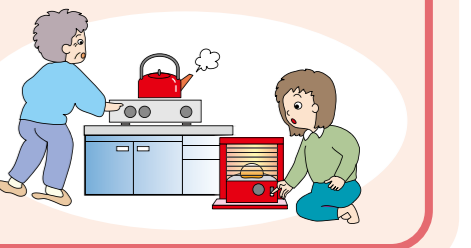
●正確な情報収集と自主的避難を
ラジオ・テレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



●避難の呼びかけに注意を
危険が迫ったときには、市役所や消防署から避難を呼びかけることがあります。呼びかけがあったときは、速やかに避難しましょう。



●避難する前に
あわてず冷静に周囲の状況を確認しましょう。避難する前には、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、火の始末をしましょう。



避難時の心得

●動きやすい服装で2人以上での避難を
避難するときは、動きやすい服装で避難しましょう。また、単独の行動は避け、2人以上での避難を心がけましょう。



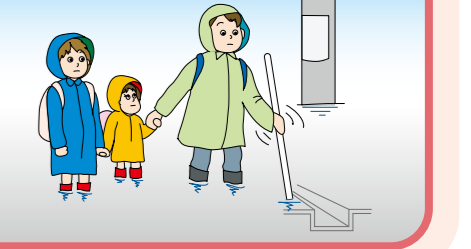
●はき物に注意を
裸足、サンダル、長靴は危険です。歩きやすい運動靴で避難しましょう。



●水深や流れの強さに注意を
歩くときは、水深や流れを考慮し、無理をしないようにしましょう。歩くことができる深さは、男性で約70センチまで、女性で約50センチまでです。



●段差や溝に注意を
避難するときは、できるだけ浸水していない道路を選びましょう。また、浸水している場所では、溝や水路に十分注意しましょう。



避難時の留意点

●万一逃げ遅れたら
避難が遅れて浸水してしまったときは、予定された避難場所に避難することが必ずしも最善ではない可能性があるため、状況に応じて柔軟に各自で判断し、建物の2階や屋根などの高い場所への垂直避難で安全を確保し、救助を待ちましょう。



●車での避難は控えて
車での避難は、緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。また、水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。



●危険箇所
浸水のおそれがある立体交差点（アンダーパス）や土砂災害のおそれがある場所などは、二次災害のおそれがありますので、近づかないようにしましょう。



●異常を発見したら
浸水しそうな場所や雨水が噴き出してマンホールの蓋が外れそうな場所など、異常のある箇所を発見したときは、近づかないようにしましょう。



地下空間の危険性

●地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます
換気口など思わぬところから水が入ってくる場合があります。また、水が流れ落ちると、階段は登ることができなくなります。



●水圧でドアが開きません
浸水すると、外開きでも内開きでもドアを開けることができません。



注意を要する箇所

●立体交差点（アンダーパス）
道路や鉄道などが立体交差し、道路が低くなっている所は、水がたまるため通行ができなくなります。



●低いところ（窪地）
アンダーパスのほか、周辺の土地より低くなっている道路なども、周辺の土地から水が流れ込み、水がたまるため通行ができなくなります。



基準水位

避難に関する情報は、河川の水位の上昇を参考にして発令します。河川の最新の水位は「国土交通省 川の防災情報」で確認できます。治水橋、清柳橋、浜崎の各観測所の水位はマップ面の二次元コードから確認できます。

河川	水位観測所	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
荒川	治水橋	7.00m	7.50m	12.80m	13.30m
柳瀬川	清柳橋	19.15m	19.65m	20.53m	20.87m
黒目川	浜崎	5.10m	5.80m	—	6.04m

上記基準水位は令和2年のものであり、今後変更されることがあります。

水防団待機水位：水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位
氾濫注意水位：水防団が活動して河川の警戒にあたる水位
避難判断水位：レベル3 高齢者等避難の発令の目安であり、避難に時間がかかる方が避難を開始する水位
氾濫危険水位：レベル4 避難指示の発令の目安であり、河川が氾濫するおそれのある水位

洪水と内水氾濫の違い

- 洪水・外水氾濫（本マップで扱うもの）
河川の水位が上昇し、堤防からあふれた水が町中に流れ出す水害です。河川の周辺で発生します。
- 内水氾濫
道路側溝や雨水・下水管の排水能力を超える激しい雨が降った場合、河川の水位が高くなる水害を内水氾濫と呼びます。雨水が町中に溜まる水害です。河川から離れたところでも、周囲より標高が低い場所で発生します。

※「新座市内水ハザードマップ」も作成しておりますので、あわせて御確認ください。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）の前兆現象



- 斜面に亀裂ができる
- 斜面にはらみがみられる



- 普段澄んでいる湧き水が濁ってきた、水の吹き出しがみられる
- 湧き水の急激な増加あるいは減少・枯渇が認められる



- 小石が斜面からばらばらと落ち出す
- 斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる

土砂災害について

○土砂災害の種類

土砂災害は、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」、「土石流」、「地すべり」の3つに分かれ、何日か続く大雨や大雨、突然の集中豪雨及び地震によって発生し、全国各地で被害が発生しています。新座市で発生するおそれがある土砂災害は、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）のみです。

○土砂災害防止法

土砂災害防止法（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）は、土砂災害から国民の命を守るため、土砂災害のおそれがある区域を法律で指定し、危険の周知・警戒避難体制の整備をしていくものです。また、著しい土砂災害が発生すると予想される区域では、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転の促進などのソフト対策を推進しようとするものです。

○土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、地域防災計画に基づいて土砂災害に関する危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

○土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域のうち、著しい危害が生じるおそれがあると土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等の措置が講じられます。

情報の入手先

各機関が発表する情報は、テレビ・ラジオのほか、インターネット上でも入手することができます。新座市公式LINEに緊急時の情報取得に役立つサイトを掲載していますので、これらのホームページなどから積極的に情報を収集しましょう。

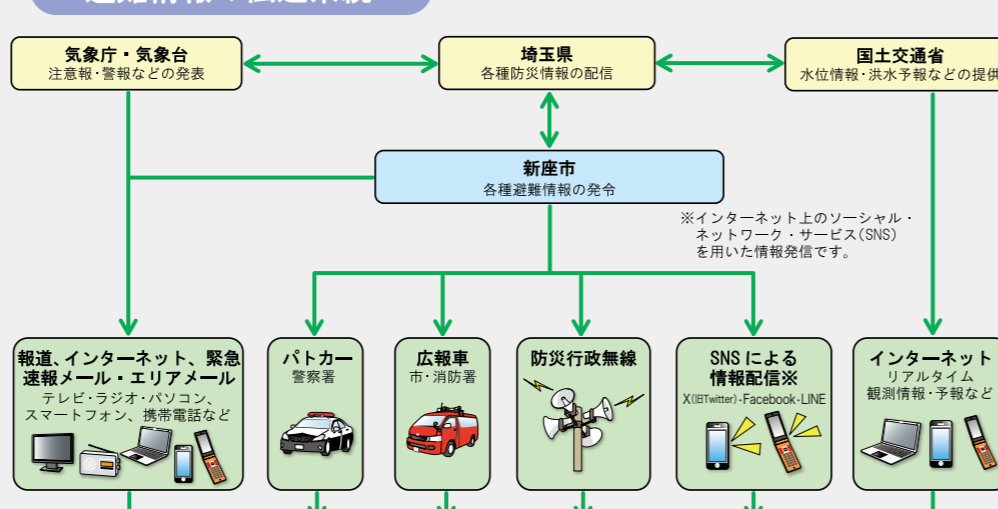
○新座市公式LINEの友だち追加用



○新座市防災サイト「緊急時の情報取得について」



避難情報の伝達系統



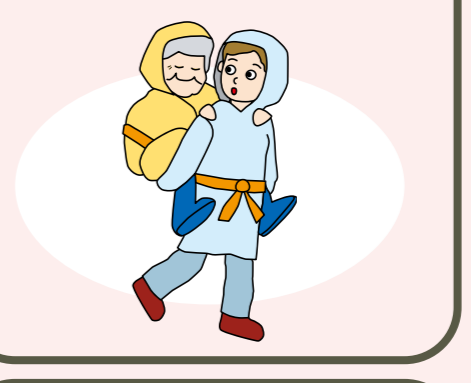
（参考）防災行政無線の放送内容は、フリーダイヤル（0120-8622-399）で確認できます。

3 要配慮者への支援

高齢の方、身体の不自由な方など、情報の把握や避難の行動に時間がかかる方は、早めに避難をする必要があります。これらの方が早めに避難できるように支援しましょう。また、避難に際し、近所に援助を必要とする方がいるときは、その避難にも協力しましょう。



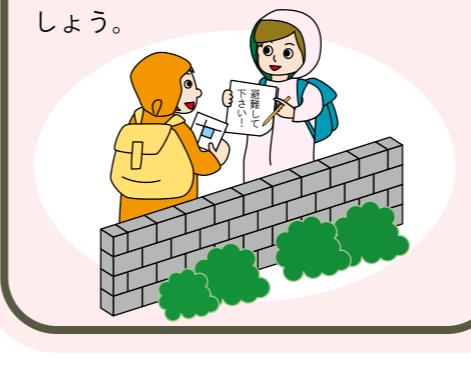
●高齢の方・病氣の方には
車いすや応急の担架などを使い、2人以上で避難に協力しましょう。緊急の際は、ロープなどを使い背負って避難しましょう。



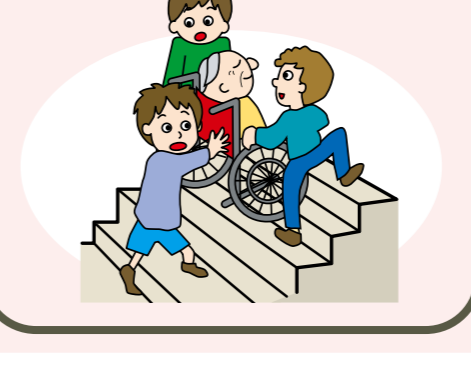
●目の不自由な方には
まず、「お手伝いしましょうか」などと声をかけましょう。次に、杖を持っていない側にまわり、案内の腕を軽く持ってもらいます。階段や障害物などの状況を説明しながら、半歩前をゆくりと歩きましょう。



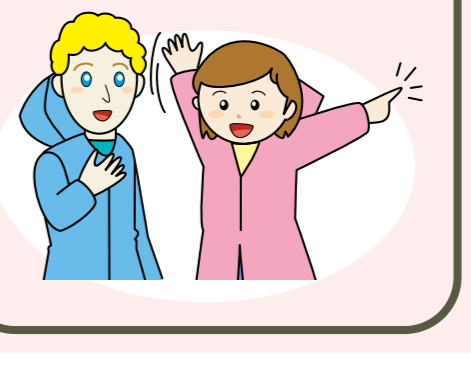
●耳の不自由な方には
近くに寄って、相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはききりと動かして話しましょう。また、紙に書く、身振りをするなどで情報を分かりやすく伝えましょう。



●体の不自由な方には
車いすでの避難には、必ず3人以上で協力しましょう。階段を上がるときは車いすが前向きに、下がる時は車いすが後ろ向きになるように避難しましょう。



●外国の方には
声をかけ、言葉が通じないときは、身振り手振りを交えて話しかけるなどして、孤立しないようにしましょう。

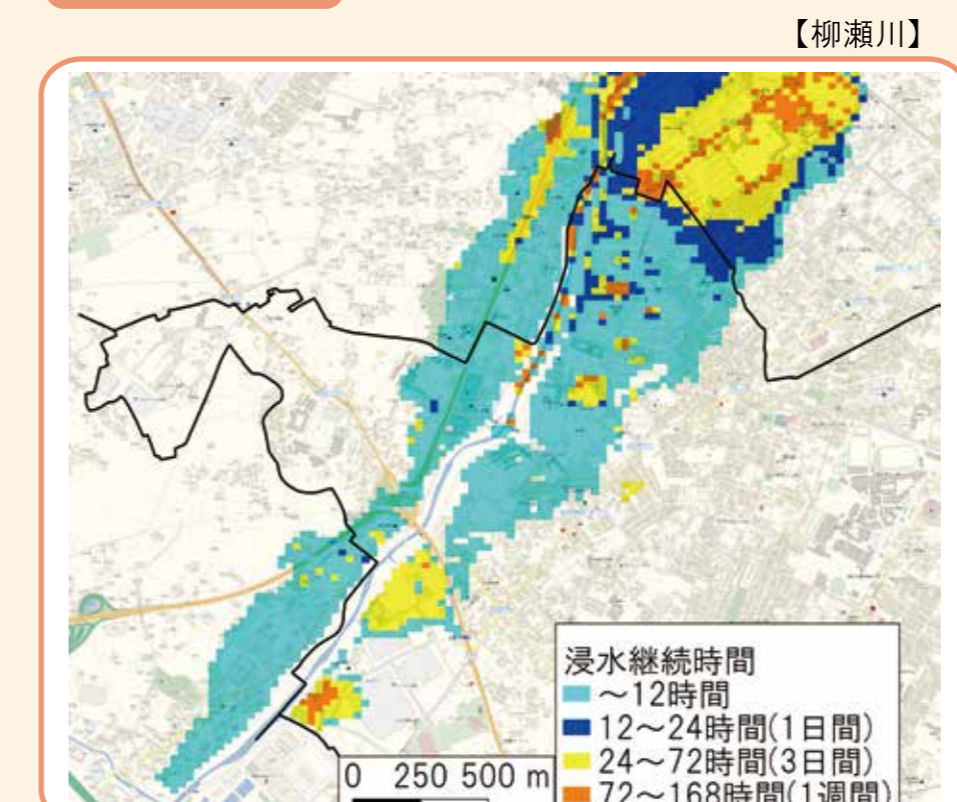


●妊婦・乳幼児には
妊婦や乳幼児がいるときは、避難の行動が遅れることがあります。避難する際には地域の皆さんで協力して助け合しましょう。

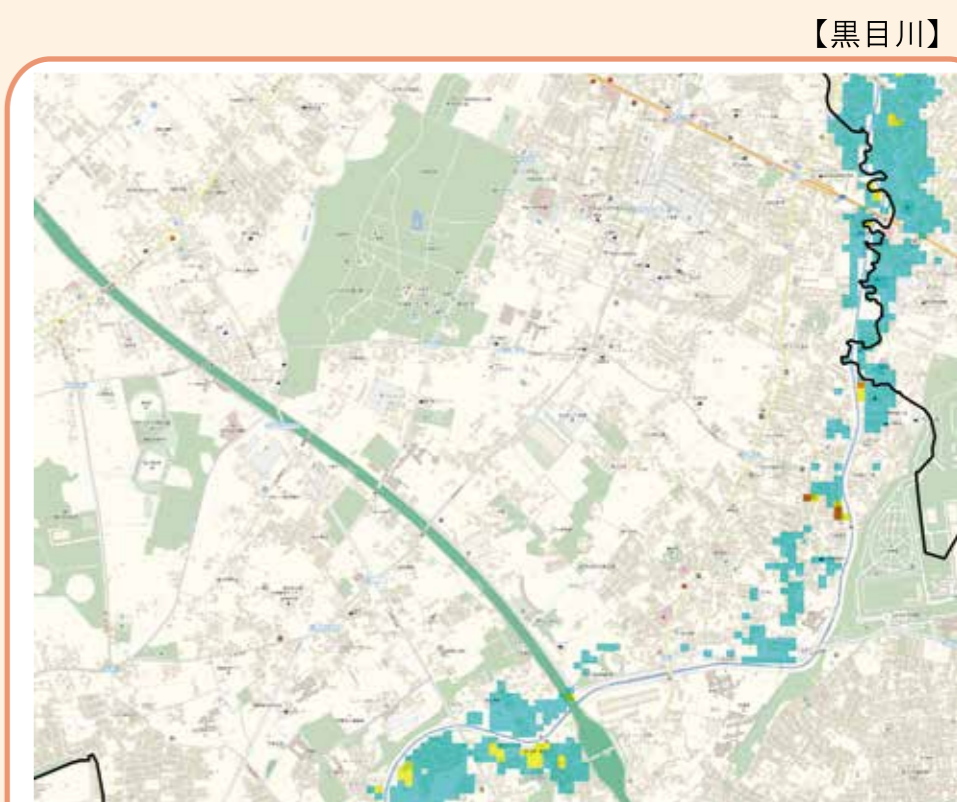


4 予想される浸水の継続時間

浸水継続時間



この図は、想定最大規模の降雨の際に、破堤や越水等の河川氾濫が生じ、ある地点に浸水が到達し、その浸水の深さが50cmに達してから50cm未満となるまでの時間の最大値を示すものです。時間の最大値については、荒川水系荒川洪水浸水想定区域図のもの、荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図のものを比較し、より長い方を反映させています。浸水継続時間が72時間を超える地域では、河川の氾濫により孤立する可能性があります。原則として浸水想定区域外への立退き避難を行ってください。



この図は、想定最大規模の降雨の際に、破堤や越水等の河川氾濫が生じ、ある地点に浸水が到達し、その浸水の深さが50cmに達してから50cm未満となるまでの時間の最大値を示すものです。時間の最大値については、荒川水系荒川洪水浸水想定区域図のもの、荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図のものを比較し、より長い方を反映させています。浸水継続時間が72時間を超える地域では、河川の氾濫により孤立する可能性があります。原則として浸水想定区域外への立退き避難を行ってください。

©NTTインフラネット

新座市洪水・土砂災害ハザードマップ

Map of flood disaster areas and Landslide warning areas in Niiza city
新座市洪水災害、泥石流災害危険地図
니이자시 홍수 재해, 토사 재해 지도

凡例 Legend 凡例 범례

予想される浸水の深さ
Expected Water Level
予測洪水発生時浸水の深度
예상되는 침수 정도

- 3~5m未満の区域
2階の軒下まで浸水する程度
3m ~ less than 5m
Flood waters will reach the second floor roof.
- 0.5~3m未満の区域
2階の床まで浸水する程度
0.5m ~ less than 3m
Flood waters will reach the second floor.
- 0.5m未満の区域
大人の膝までつかる程度
Less than 0.5m
Flood waters will be knee-deep[adult].

高層階にお住まいの方

マンションなどの高層階にお住まいの方は、避難場所に行かずとも、上の階に移動する垂直避難で安全を確保する方法もあります。ただし、長期化するおそれがある場合は、浸水想定区域外に立退き避難してください。

上の階や、浸水想定区域外に立退き避難してください。

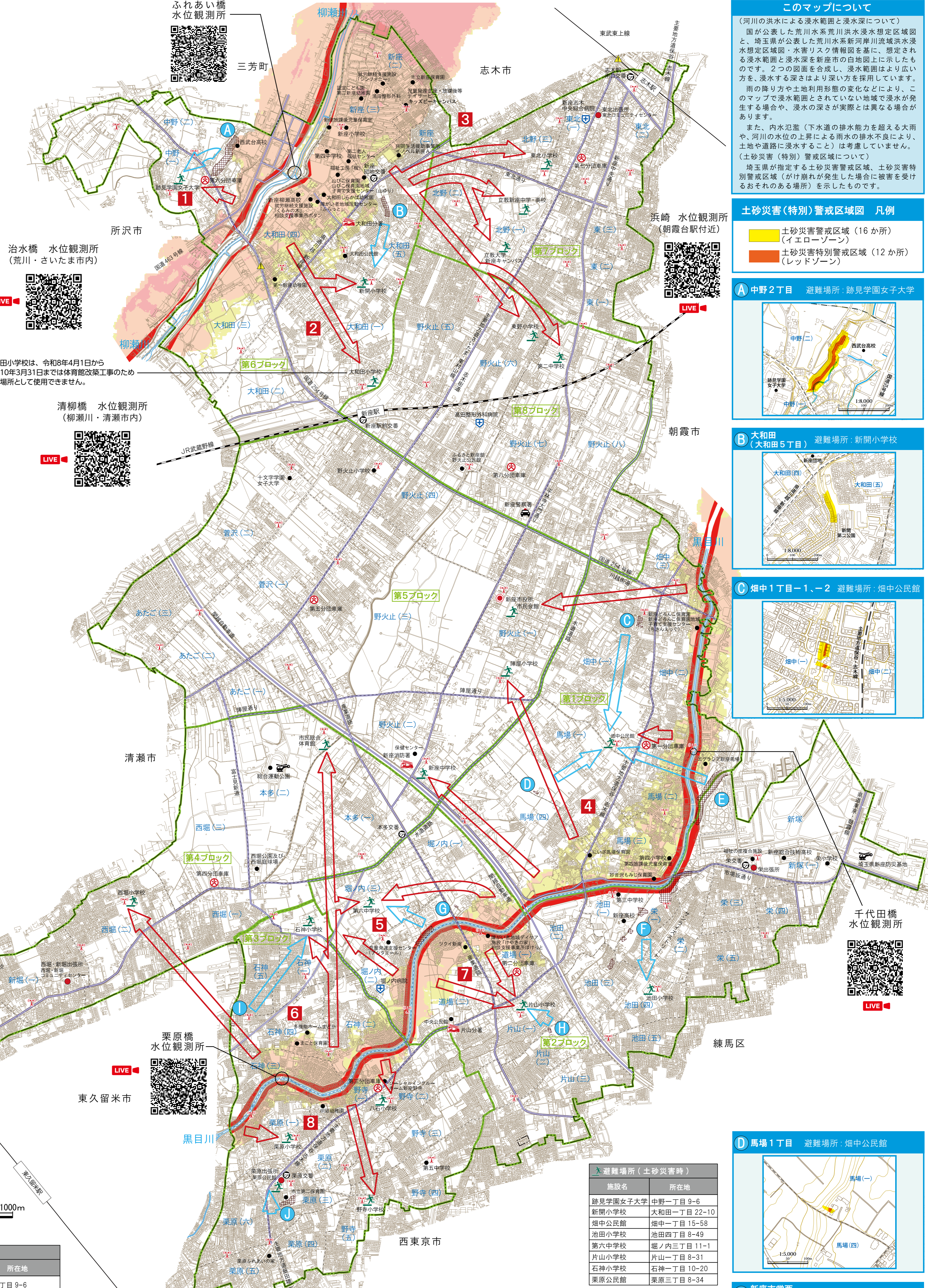
記号 Sign	記号 기호
	指定緊急避難場所（風水害時） Designated Emergency Evacuation Site 指定緊急避難所 (風水害時)
	市役所 City Hall 市政府
	出張所 Branch Office 分事務所
	消防署 Central Fire Station 消防署
	消防団分団車庫 Local Fire Station Garage 消防団分団車庫
	警察署 Police Station 警察署
	交番 Police Box 派出所
	救急病院 Emergency Hospital 急救院
	ヘリポート Helicopter Port 直升機場
	防災行政無線 Disaster-prevention Administrative Radio 防災行政無線
	市境 Boundary of MachiAza 市境
	町丁境界 Boundary of MachiAza 町丁境界
	防災ブロック Disaster-prevention Block 防災ブロック
	緊急輸送道路※1 Emergency Transportation Road 緊急輸送道路
	アンダーパス Underpass 地下道
	土砂災害警戒区域※2 Landslide Warning Areas 土石災害警戒区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）※3 Area with Building Collapse Risk (River erosion) 房屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）

※1 大規模災害時には救助・救援・医療活動を優先させるため一般車両の通行を規制します。

※2 土砂災害警戒区域とは、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民に危害が生じるおそれがあるものとして土砂災害防止法が指定した区域で、警戒避難体制を特に整備すべき区域をいいます。土砂災害特別警戒区域とは、土砂災害警戒区域のうち、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのあるものとして土砂災害防止法が指定した区域で、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造を規制すべき区域をいいます。

※3 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）とは、洪水の際に河岸が削られて、家屋が倒壊するおそれがある区域です。この区域の住民の方は、原則として早期に浸水想定区域外へ立退き避難をしてください。

※4 内水氾濫に関する情報は「新座市内水ハザードマップ」及び浸水履歴を御確認ください。



このマップについて

（河川の洪水による浸水範囲と浸水深について）
国が公表した荒川水系荒川洪水浸水想定区域図と、埼玉県が公表した荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図を基に、想定される浸水範囲と浸水深を新座市の白地図上に示したものです。2つの図面を合成し、浸水範囲はより広い方を、浸水深はより深い方を採用しています。

雨の降り方や土地利用形態の変化などにより、このマップで浸水範囲とされていない地域で浸水が発生する場合があります。浸水の深さが実際とは異なる場合があります。

また、内水氾濫（下水道の排水能力を超える大雨や、河川の水位の上昇による雨水の排水不良により、土砂や道路に浸水すること）は考慮していません。（土砂災害（特別）警戒区域については）
埼玉県が指定する土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域（がけ崩れが発生した場合に被害を受けるおそれのある場所）を示したものです。

土砂災害（特別）警戒区域図 凡例

- 土砂災害警戒区域（16か所）
（イエローゾーン）
- 土砂災害特別警戒区域（12か所）
（レッドゾーン）

A 中野2丁目 避難場所：跡見学園女子大学

B 大和田（大和田5丁目）避難場所：新聞小学校

C 畑中1丁目-1、-2 避難場所：畑中公民館

D 馬場1丁目 避難場所：畑中公民館

E 新座市宮西 避難場所：畑中公民館

F 妙音沢、新座高校 池田1丁目-1、-2 避難場所：池田小学校 池田3丁目

避難場所（洪水時）

避難対象区域	避難対象町丁目	施設名	所在地
1	中野一丁目の一部	跡見学園女子大学	中野一丁目 9-6
	中野二丁目の一部	跡見学園女子大学	中野一丁目 9-6
2	大和田一丁目	新聞小学校	大和田一丁目 22-10
	大和田二丁目	新聞小学校	大和田一丁目 22-10
	大和田三丁目	新聞小学校	大和田一丁目 22-10
	大和田四丁目	新聞小学校	大和田一丁目 22-10
3	新座一丁目	東北小学校	北野三丁目 1-1
	新座二丁目	立教大学新座キャンパス	北野一丁目 2-26
	新座三丁目	立教新座中学・高校	北野一丁目 2-25
	新座四丁目	東野小学校	野火止六丁目 22-12
	新座五丁目	第二中学校	野火止七丁目 17-10
4	畑中二丁目	畑中公民館	畑中一丁目 15-58
	畑中三丁目	市民会館	野火止一丁目 1-2
	馬場一丁目	陣屋小学校	野火止一丁目 18-20
	馬場二丁目	新座中学校	野火止二丁目 4-1
5	堀ノ内一丁目	第六中学校	堀ノ内三丁目 11-1
	堀ノ内二丁目	石神小学校	石神一丁目 10-20
6	石神一丁目	第六中学校	堀ノ内三丁目 11-1
	石神二丁目	石神小学校	石神一丁目 10-20
	石神三丁目	石神小学校	石神一丁目 10-20
7	道場一丁目	片山小学校	片山一丁目 8-31
	道場二丁目	片山小学校	片山一丁目 8-31
8	野寺一丁目	栗原小学校	栗原一丁目 5-1
	野寺二丁目	八石小学校	野寺二丁目 8-45
		野寺小学校	野寺五丁目 1-24

※災害により被害を受けられた方には、各種被災者支援制度があります。詳細はこちら

I 石神4丁目 避難場所：石神小学校

G 堀ノ内1丁目 堀ノ内2丁目-2 避難場所：第六中学校

J 栗原3丁目 避難場所：栗原公民館

H 片山2丁目-1 避難場所：片山小学校

注）この洪水・土砂災害ハザードマップで示されている避難場所は、予測される洪水に対応した避難場所であり、震災時の避難場所とは必ずしも一致しません。震災時の避難場所は、浸水する可能性がある場所もありますので、十分注意してください。